

募金を持参した仰星学園の生徒会役員たち

歳末助け合い「愛の義援金」
寄せられた善意は総額806万余円

毎日新聞社と当西部社会事業団が広くお願いした19年度の歳末助け合い募金「愛の義援金」の集計結果がまとまった。海外救援金、小児がん征圧募金を含めた募金総額は988件、806万2725円に達し、前年度に比べると145万円余り増加した。一般募金は児童養護施設や母子施設、障害児施設などの子どもたちへの新入学や卒業の祝い品プレゼントや福祉諸団体への助成金として活用し、他の指定募金は関係機関や団体へ配分します。ご協力ありがとうございました。

「愛の義援金」は毎年12月の約1カ月間を募集期間と定め、過去に何らかの募金を頂いた方や歳末チャリティ展でご購入頂いた方々などに募金をお願いするチラシや振込用紙などを郵送しており、10年度は約6000人の方々にご協力をお願いした。

その結果、早いペースでは11月末ごろから集まり始め、師走に入るとともに徐々に寄せられ、連日50件前後の振込通知が届いた。特に週明けの月曜日は更に多くの振込通知が殺到し、担当スタッフは地域面紙面に掲載する募金者のお名前書きなどに追われた。世界的な不況が募金に影響すると予想される中、総件数は988件と前年度に比べ47件減少したものの、募金総額は806万2725円で前年度に比べ145万5420円の増加となった。

増加した最大の要因は、一般募金が伸びたことだ。昨年度は一般募金が536万円余りだったに対し、今年度は総額で142万円余り多い678万3711円にのぼった。寄託された方々の中には、宝くじで当たった77万7900円を寄せたくれた福岡県篠栗町の南蔵院住職、林覚乗さんを筆頭に、福岡県や山口県のも

	10年度		09年度		前年度比	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般募金	764	6,783,711	820	5,362,078	-142	1,421,633
海外救援金	109	628,934	112	641,149	-4	-12,215
小児がん	115	650,080	103	604,078	9	46,002
合計	988	8,062,725	1,035	6,607,305	-137	1,455,420

歳末募金を原資にした児童養護施設や母子施設の子どもたちへの新入学・卒業祝い品プレゼントは例年通り、この春小学校に入学予定の子どもや中学・高校を卒業予定の生徒たちが対象となる。

今年も福岡、山口、長崎3県の97カ所の施設を対象に、事前に調査用紙を配布して、対象者数などを調べてもらった。対象者は82施設704人で、新入学児童にはランドセルやリュックサック(水筒付き)、手提げ(筆箱付き)、雨具セット、図書カードのいずれか希望の品を、中学・高校を卒業予定の子どもたちには月見時計が図書カードを贈る。

このほか、歳末募金の第二次配分として山口県の児童福祉連絡会や福岡県の交通遺児を支える会、九州盲導犬協会、福岡・北九州のいのちの電話、北九州あゆみの会、障害福祉ボランティア協会など福祉団体に活動助成金を贈る。

富田さんの作品「陶器と真刺繍魚」

障害のある人たちが絵画や書を通じて社会参加を進めようという「第29回肢体不自由児・者の美術展」（当事業団など後援）が3月1～6日、福岡市市中央区のアクロス福岡で開かれる。全国から応募があった744点のうち、九州・沖縄各県の入賞作品を中心に、絵画13点、コンピュータアート3点、書12点、デジタル写真1点を展示。絵画の部で入賞した福岡市立西長住小1年、吉村通人さん（6）の「3くみもやらないかんばい」や、長崎県立諫早特別支援学校高等部3年、富岡大志さん（17）の「陶器と真剣勝負」などの作品が展示されることになっている。

北九州、山口、福岡の3会場で

全国の一流作家の先生方のご理解とご協力により、毎年末に実施している当社会事業団恒例の歳末チャリティ「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」は12月、北九州、山口、福岡の3会場で順次開催し、多数の美術ファンが詰め掛けた。しかし依然として続く世界的な不況の影響により、売上高は1600万円台にとどまった。08年度以降、落ち込み傾向が継続している。

ものの、作品を買い求める人が例年に比べ減少。売上高は別表の通り、前年度に比べ120万円余り下回る厳しい結果となった。10年度歳末展で売れ残った作品は、3月5日に北九州市の毎日会館で開く年度末展で、価格をさらに値引きして展示・即売する。

益金は福祉団体や施設に助成

即売展の売上から諸経費を差し引いた益金は、多様な福祉事業に活用。児童福祉や障害者福祉、高齢者福祉、交通遺児支援、ホームレス自立支援などの活動に取り組み団体や各種施設への助成金などに配分する。

即売展には、全国の洋画家、日本画家、書家、名刹の高僧、陶芸家、工芸家、芸能人ら837人から1574点の作品が寄せられた(前年度844人、1534点)。これらの作品を3会場に振り分け、前年度の即売展で残っていた作品と合わせて展示・即売。いずれの会場でも、特に著名な作家から寄せられた作品約100点は入札方式とし、2日目に集計して落札者を決めた。

会期と会場は12月4、5日が北九州展(小倉北区の毎日会館)▽11、12日が山口展(山口市の山口井筒屋)▽18、19日が福岡展(中央区アクロス福岡)。

3会場のトップを切つて開かれた北九州展は、開場時刻の午前9時半より1時間も前から美術ファンが訪れ、長い列を作った。今年度は3会場とも好天に恵まれたこともあり、

支 費	
書画材・額等	費
会場	費
労務	費
通信・印刷	費
輸送	費
旅費交通	費
事務	費
資料	費
雑	費
総経費(B)	1
社基金へ	=

10年度歳末即売会収	
売上高	
北九州	6,076,909
山口	5,339,666
福岡	4,808,596
10年度計	16,225,171
※参考	09年度売上高
北九州	6,538,447
山口	5,220,513
福岡	5,791,522
09年度計	17,550,482
10総売上(A)	16,225,171
益金(A-B)は社会奉	

人生の節目を迎えた知的障害のある人たちを祝う「第30回出発(たびだち)を励ます集い」(北九州市、市手をつなぐ育成会主催、毎日新聞西部社会事業団後援)が1月30日、戸畑区のウェルとばたで開かれた。出席者がスーツや羽織袴などの晴れ着で壇上に上がると、家族や関係者からあたたかい拍手が送られた。

小学校入学、中学校卒業、成人、還暦をそれぞれ迎える87人が対象で、うち約40人が出席した。育成会の北原守理事長から記念品の時計が手渡されると、会場に手を振ったり、誇らしげな笑顔を見せていた。

とばた通勤寮で一人暮らしを目指している古田徹平さん(20)が代表してあいさつし、「いろんな壁にぶつかりますが、家族や先生方の支えがあって頑張っています」と感謝の言葉を述べた後、「自分を磨いて次の世代を引っ張れるような大人になりたい」と力強く決意を語った。



北原理事長から記念品を贈られる参加者たち

度末展は3月5日(土)9時半〜16時
日西部会館5階会場で開催します
歳末展より更に値下げして即売
ぜひ来場ください！

ぜひご来場ください

!

5階から6階へ 社会事業団の事務局が移転！

毎日新聞西部社会事業団の事務局が1月下旬、移転しました。これまでは毎日西部会館5階でしたが、すぐ上の6階に引越しました。これまでよりスペースが広くなり、大きな窓に面しているため、明るく働きやすい環境になりました。お近くにおいでの際は、どうぞお立ち寄りください。

多くの美術ファンが訪れた
チャリティー即売展